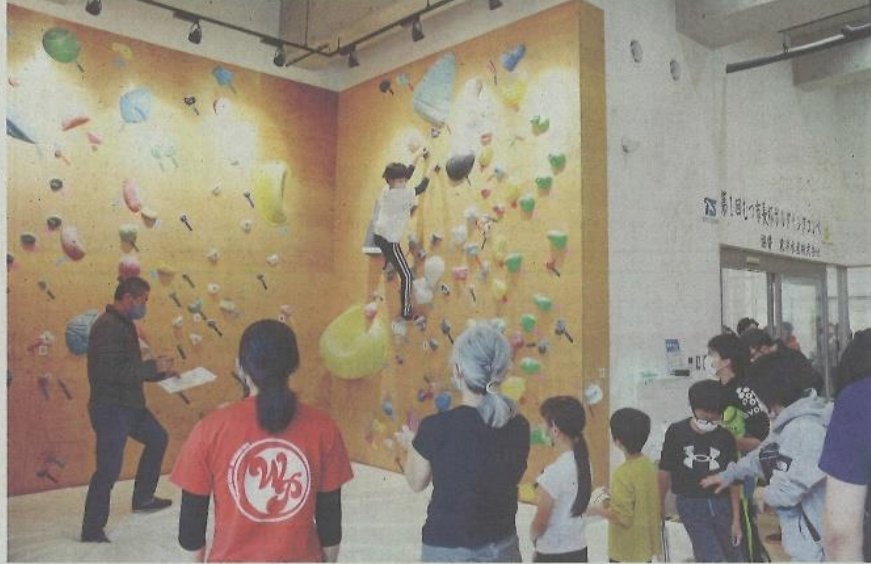


# 若者定住へ官学連携拡充

## 今春、八学大サテライト開設

### むつ市

2005年3月14日に誕生した新生むつ市。ホタテ養殖などの漁業を基盤とした川内町、ヒバ材などの林業と漁業が盛んな大畑町、タラ漁の場



むつマエダアリーナには青森県内公共施設で初のボルダリング室も設けられている=2020年

取り」や「北限のニホンザル」の生息で知られる脇野沢村の3町村を編入した。面積は県内市町村で最大の約864平方キロとなり、県全体の約9%を占めている。

山海の豊かな資源に加え、

恐山や川内川溪流をはじめとする景勝地、薬研などの温泉にも恵まれる。一方で半島ゆえの南北アクセス向上が課題で、下北縦貫道路の早期全線開通とJR大湊線の存続が望まれている。

市内では09年に市役所本庁舎が移転。プロスポーツの試合を開催できる「むつマエダアリーナ」や産業振興拠点施設「むつ来さまい館」、旧町村の新庁舎などが次々と整備された。

若者定住に向け、官学連携のサテライトキャンパスも充実を図る。今春には八戸学院大健康医療学部看護学科のサテライトを開設する。

約6万8千人でスタートした新市の人口は、20年で約5万人まで減少。特に旧町村中心部の空洞化は合併以来の課題で、定住自立圏や「下北ジオパーク」といった下北5市町村連携の取り組みも加速している。

使用済み核燃料中間貯蔵施設には昨年9月、初めて核燃料が搬入された。国が将来の搬出先と位置づける六ヶ所村の再処理工場は稼働できておらず、永続的な貯蔵を懸念する声がある。(松浦大輔)